風のグラスゴー

玲於奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
風のグラスゴー

【Ｎコード】
Ｎ３８８１Ｙ

【作者名】
玲於奈

【あらすじ】
英語のだめ　海外留学体験記

海外留学体験記

なぜ、私はここにいるのだろう。
氣がつけば、ここにいた。

空がほんとうに高い。青空が広がっている。
ここまで空が青いとは。
息をのむような青さ。
宇宙に広がっているのか。

飛び降りる。
飛び降りるふりをする。
わからない。

そして、そんな自分に笑う。
なぜ、笑うのだろう。

しかしながら、崖沿いの葉がきれいだ。そして、私はここにいる。
何をしにきたのだろう。
全くわからない、切り立った崖、断崖の絶壁。
私は死のうとしているのだろうか。
わからない。なぜかわからない。

第二話　日本食で悶絶

死ぬ前に食べたあああああい。

エビフライおにぎりーーーー。

ご飯でえびフライが包まれていて

見た目は、Ｓコンビニの、チーズとか入ったやつ

でも、ご飯で勝負の一品。

地元は、みんなおやつはそれ。

知るかあ。（読者の叫び）

地元の名産。

こんな外国でだれもしらんべ。

日本食食べなくて、何ヶ月目だ。

おいしいんだぞう。

死ぬ前に食べ物とは、情けない。

それが欲求不満の原因なのか。

これで、死んでいいのか。

泣けてくる。つまらない人生。

こんなことのためにここまで来たのか。

そう思うと、あのだいっきらいな中学時代を

思い出した。

英語なんて、くそくらえの、時代。

なんで日本人なのに、英語を話さなければならないのか。

なんでなのだろう。

彼が英語嫌いなのは（前書き）

なし

彼が英語嫌いなのは

英語がだいっきらいのは、
ひとえに中学校の担任の影響が
大きい。

中1の担任は、吉原ていちゃー、国語教師。

温厚な先生だった。
今、思えば、日本語は先生のために
あるようなものに思えた。

その後、大学までいったが、
あのような温厚な先生をみたことがない。

とつとつと、語っていた。
特に、昔のやつ。
なんだか忘れたが、徒然草だかなんだかが、
とても冴えていた。
というか・・・

こちらが初めてだったので衝撃だった。

「佐藤君、おかしという古語の意味がわかりますか。」

おやつだと思った。

佐藤君の家は、開業医で、万事そつなく、クラスの人気者。

彼が、「趣があることです」

と言った時、何をこの人は、言っているのか。

と思った。

しかしながら、吉原先生が
優しくうなずきながら、正解です。
よく勉強していますね。

と言った時、本当に驚いた。

本当に本当におどりゃった。

お泊まり会（前書き）

なし

お泊まり会

担任の吉原T、以後ティーチャーの略でTとする。

吉原Tは優しかった。

近隣の学校の、学校での宿泊を伴う
レクレーションを禁止しましょう。というお達し。

F中、だめ。

A中、ばつ。

G中、だめだめ、だめ、接待ゆるさん。
もとい、絶対ゆるさん。
絶対に悪意を感じる。

中体連で知り合ったやつらからのメール。

親切だ。
情報をありがとう。

うちでながしたんだけどね。

先生の間でおったされたのだろうか???
言葉がわからないが・・

相当の包囲網。
まさに万事急須。

きゅうすは、これでいいのか。
教えてくれ。誰に言っているのだ。

ところが、

ところが、ところが、ＹＴ
（吉原Ｔをさらに略す、本人ＹＫＫでよぶな。意味不明）

頑として無視。

全くもって、学級に任せてくれた。

そして、開催された。

なんだかわからないけど、学校で泊まろう！！

お泊まり会（後書き）

なし

学級委員の命令（前書き）

なし

学級委員の命令

学級委員長の命令！！

というか、期待やつ。

来たいやつだけ来ればいい。

ということで学級の内容。話し合いでもよくわからず。

開催！！！！！！

よくまあ、ＹＴ（吉Ｔ許したな。）

というか、よく承認されたな。

というか、学校に無許可なんじゃないの？？？

と言う話も後日、後日あり。

内心、心穏やかでない。

内申に響く。響くよね。

そのような方は、適時解散。

いちお様子はみにきたよ。

というか、

E美、「頑張って！！」
（何を頑張るのか、うちらもわからない）
と言って、ジャンクフードの差し入れ、ありがたい。
１００苑、なんとかでないと買いにいけないものばかり・・・

というか、うちらは午後7時に学校に集まり、何をするでもなく。

なんとなく、学校の周り。

塀にそってぶらぶらし。

多いと目立つ。との声で。

なんとなく燦々午後。（いいのか、漢字検定合格者教えてくれ）
たびたび思うが、誰に言ってる！！！！

学級委員の命令（後書き）

なし

警備の小池さん（前書き）

なし

警備の小池さん

警備の小池さんに迷惑かけるな。

誰かがざわついた。

小池さん。頭があがらない。こないだ、R損に、逃げだすところを見逃してくれた。というか、授業中、というか4時間目終わり。

というか、給食あるのになぜ・・・。某I数学教諭と息のあわないもの多数。

意味不明。

さらに、さらに、小池さん、三者面談のばっくれ。

うちら怪しいから。わかるよねえ。

協同不審。わかるよ。

職員室からもなんか言っていると思われる。

見逃してくれる。誰もがありがたいと思われること

二度や三度や、四度、五度・・・

仏の顔も三度まで。

坊主になった人もいると聞く。が、人生買われるのは素晴らしい。

そして、そして、そして。。。。。

さらに、強力妨害キャラ。

まさに、ボスキャラ。

進路指導のＰＴ、もとい、Ｐ教諭。

だったじゃすまない。昼休み。終わることなく、放課後の

説諭。意味はわからないが、自称説諭。なんだろ。

自称はなに。ろんげなの。いやかつら、失礼アデランス。

これは古いか、とっさんのことでみんな言う。

（教えてください。誰に言ってる）

わからないが。みなの恐れるとおり、説教ワールド。

さらに、時々、私立の娘さんの説教も入る。多分・・・予感。

なぜか、涙ぐむ。うちらに関係ない事いう。

特に、業者テストの点。おかしい。そんなにとれない。

警備の小池さん（後書き）

なし

keroroぐOS００（前書き）

なし

keroroぐ0S00

昨日の悪夢がよみがえる。

怒られの、冷の感情が入ってしまった。話をもどそう。

みんなが、なんとなく散策、部活の忘れ物、

生徒会、部活、単なる教室もどりを装い、

単純に忘れ物を装い、

塀に沿って、さりげなく学校に近づく

忘れ物などを理由に校内に入る。

小池さん、聞いてないふり。うまい。さすが。

というか、最初から学級レクと言え!!!担任。

そこが担任をせめられないところ・・・

そして、笑えるのが何をするのでもなく。

なんとなく、氣にいった教室に行く。

そして、そして、

氣にいった仲間で朝まで過ごす。との指令。

これって学級レクなのか。

もちろん、担任は、成績処理とのことできょうとーに許可をとり、職員室のセコム、操作。。。。らしい。くわしくは、トップシークレットとのこと。おいおい。あんたは、トムハンクスか。ＭＩ５か。

と・こ・ろ・で。Ｋ君。

なぜ。毛布がある！！！！

というか、ろうそくはやめろ。

セコム来る。

というか、てんと教室にはるなあああ。

くれよんしんちゃんかあああ。

なんとなく言ってみました。

というか、その山岳ザックやめろ。

よく怪しまれなかったな、というか、山岳部か。

K男。みんなの荷物運び。やるなあ。

山岳部さまさま。

えらい。

みんなそれぞれだらだらモード。

きょーとーも、校長が帰ったので、すばやく6時帰り。

他の教員には、さすが、担任、それぞれに工作。

K朝なみ。

パチンコ好きのOT、まぎらわしい。

人文字か？O教諭だろ。

駅前、Mはんの大出血サービスのちらし。

さらに、K、F、ATには、コンパの誘い。よく看護学校とつきあいあったな。

それだったら、担任結婚しろ！！！。

悪いことはいわない、シャツ2度着はやめろ。召集・・・かけられるぞ。

なかなか暗号チック。

独身の居残り組。まだいた、

単純にいかない。フラワーアレンジメント、僕と一緒に行きませんか。

よくやるね。担任。愛を感じる。

ふつうひくよな。

行くか、帰るか。

・・・・・・・・・

帰ったか。

担任の今後を祈る。

まあ、休みも近いし・・・

しかしながら、

よかった。これで、学校占拠。

あとは、もとい、誘惑の聞かない機械。

ロボコッく、

S込むのみ、氣をつけるべし。

べし。べし。

keroroぐOS００（後書き）

なし

いと　おかし（前書き）

なし

いと　おかし

微妙な学級レク。

まあ正規じゃないからね。

でも、なんとなくみんな満足そう。

学級全員いるんじゃないの。

委員、点呼もしていない。自由です。

しかし、

なぜか、なぜか、正面玄関に集う者。多数。

なぞ。

なんとなく集まり、なんとなく、だべる。

探検するかとの話。

まあ、2，3人でまわっていこうとのこと。

でも、勝手に教室でごそごそやっている者もいる。

怪しい意味も可。

お化け屋敷の逆バージョン。

教室にいる方がびびる。

誰かが叫ぶ。

担任はどうした。

嘘とはいえ、フラワーアレンジメントショックのようだ。

何か泡の出るジュースを飲んでいる。

そっとしておこう。

みんな同意。

さっそくなんとなく探検始まる。

時間は２２時。

丑三つ時には、まだ早い。

こんだけいい担任だから、参りをするやつはいないだろう。

某数学教諭は危険。

廊下を歩くのが静か。

どろぼうだ。

しのびあしだ。

バレーみたいな、当シューズ？やめーい。

ていうか習ってたのか。

K子の借りるな。

男がやるな。

図書室、カーペットびき。

開ける。寝てる。何時に寝るよねん。

陸上部のY。朝練疲れか。

丑三つ時に起きるなよ。

祈る。祈祷するな。

十字きるな。

次。

理科室。

さすがに、ここはこちらもこわい。

ここも電気消えている。

誰もいないのか。

がらっと開ける。

怪しい光。

やばい。

でたか。

何でやねん。

電気部か。おたくのつどいか。

鈴虫に、蛍光塗料塗るなよ。

こわい。物体鳴く鳴く。

それを観察するな。

しかしながら、電気部の新たな進化。

集団。協力。

というか、他の学級まで集うな。

ただちに箝口令。そして、撤収。

解散。

こうして理科室は無人となった。

担任も　ろぼこっＴ上　楽だろ。

なんだか疲れてくるもの、途中でいなくなるものありけり。

どうでもよくなったのか。

２３時で、某アイドル番組に流れるもの。

○○にんぐむ○○に流れるものもあり。

いと　おかし。

ていうか、この表現あり？

ていうか、なんでみんな携帯テレビ持ってるの？

というか、携帯でテレビ見てるやつ。パケット料金大丈夫か？

なんとなく、それぞれの部屋に解散。

だべりんぐ開始でしょう。

ところで、

女子は、なんであんなにお菓子もってるわけ。

いと　おかし（後書き）

なし

うしみつどきに（前書き）

なし

うしみつどきに

さて、時刻はてっぺんを迎えた。

べし、べし。

蛍光灯の電氣をつけると

怪しまれるとのことで、懐中電灯。

もしくは、キャンプ用のライト。

もちろんろうそく不可。電池用。

おいおいなんだ。

ここは三階だぞ。

あの怪しい光は、まっすぐこちらに

向かってくるぞ。よもや。

人だまか。

丑三つ時への前兆か。

ここらは、昔、墓地だった。うししししって。

電氣部の吉田やめろよ。そんな古典的な。

もとい、陸軍の軍舎だったって。もっとぶるるぜ。

って、トイレの扉を半開きで、体、半身で話すな。

おまえはトイレの花子さんか。

なになに。人だまの原理は。

人間の骨にあるリンです。

おいおい電氣部、科学的知識できたか。

まじ、だぜ近づいてくるぜ。

音もないぜ。

あああああ！！！

ああびっくりした。

おいおい山岳部のＫ男か。

ところで何してるんだ、あんた一人で

こんな長い廊下歩いて怖くないのか。

なんだよ。ザック化よ。

さらに巨大に見えるぜ。

さらに、ヘッドランプかよ。

マニアックなもの持ってるな。

高い位置にヘッドランあるから、

長い廊下歩いてくるとまあ怖いぜ。

なになに、山でガスった時の方がもっと

こわい。一歩まちがったら崖から転落。

まさに一寸先は闇。

おはなし～しましょうか～。

おいおいこんなところで、お百度話か。

って話、途中なのに、どこ行くーーーー。

べしべし。

ガスりの時の訓練に持ってこい。

なんじゃそりゃあ。

うしみつどきに（後書き）

なし

ａｓａまで◎◎テレビ（前書き）

なし

ａｓａまで◎◎テレビ

って、ひきもどすな。

なになに。

ここまで来たら朝まで、生テレビ。もとい、

限界に挑戦。ギネスに挑戦。

誰が最後まで起きているか！！！！！

おいおいなんじゃそりゃあ。

いえっっっいって、何で急に大勢

出てくるんだ。

さらに、なんじゃその録音器具は、

なになに、放送部のＫ田が、

「ビックリ日本新記録！！！　ぱくり晩」で収録して

どこかで使いたいって。

ぱくり晩。。。。

晩って何よ。

そして、どこで使うのよ。

えっ、ユーチューブ。

おいおい、ユーチューブって

テープとかの録音流せるのか？？？？？

なんか適当に言ってないか。

まあ、いいいか。やれやれ。

いえーーーいって、あんたら、テレビの

おばちゃんの笑い声かよ。収録かよ。

って曲流れるなよ。

っていうか、K田、なんでビックリ日本新記録の曲

持ってるのよ。

なになに、前に錦のあきらが出た、めちゃいけの

やつから持ってきた。あんた、よく撮ってるね。

えらいよ。

「みなさん、こんにちは、今日もやってまりました、

ビックリ日本新記録ぱくり晩のお時間です。」

って、あんたうまいね。

なんとかっていうアナウンサーによく似てるよ。

「本日も解説に東海林さんを迎えて、、、なんたらかんたら」

ってワイドショーかい。しぶいよ。

Ｅ　　のー

ｋーーー。

ぼｍ。Ｂ一。い＝え。

なんだ、なんだ、なんだ、このフェッドアウトしたところからの

小さいミュージックのインは。

いえーーーーー。

ってなんだこの大歓声。深夜だぜ。

いの〇、ボンバーいえ。

いの◎ーー、ぼんばーーー

って、体操部。踊るなよ。

おいおい誰だよ。リング作るなよ。

っていうか、リング上に後ろから光イン。

バックライトかよ。後光のようだぜ、

誰だあの覆面は。

一瞬　間。

つうか担任かよ。つうか、ちょっとした学園祭の余興か。

担任、首とか体すげー赤くないか。飲み過ぎだ。

覆面とるなよ。顔開けー。つうか大ジョブか。

おいおい本当に戦うのか。

戦うのか＞＞＞。

ａｓａまで◎◎テレビ（後書き）

なし

時を×少女（前書き）

なし

時を×少女

喧噪の後の静寂。

なんだか狭い空間だ。

白い小さい石がたくさん。

足の感触がここちよい。

そうか玉砂利か。なぜ。

周りにしきつめられている。

その中央には。

長方形の木の枠。まわりは、いい木だ。

～調子にのっているわけではない。

いいにおいがする。

その中に、どんよりとした物体。

もやっている。

そうか、湯船か。

浴場だ。

壁までそんなにない。窮屈な感じがする。

何人かの人がいる。けっこうにぎわっている。

ざわつきが聞こえる。

今、氣がついたが。裸じゃないか。

脇に、脱衣かご。なんで、ここに。

あるんだ???

なんだ。

なんだ。なんだ。なんだ。

誰かが、声をかけている。

思わず、玉砂利を浴槽に落としてしまう。

「なにやってんじゃ。てめえ。」

一声に体がこわばる。

その拍子に、また白い石をいくつか

木の枠から滑り出し、浴槽に落としてしまう。

静かに沈んでいく石・・・・。

浴槽の中で小さな泡があがっている。

よく見ると、石から泡がでている。

「おんどりゃ、何、ぬかすか。」迫力がある。

本氣と書いてまじと読む。古い。

相当怒っている。ギャグじゃない。

強ばる顔、体を押さえて、相手の方を観る。

湯船の向こうに。相手が見える。

いったい。何者。。。。

あなたは誰。。。。。

ここはどこ。。。。。

わたしは一体誰。。。。。。

何を私はしているの・・・。

時を×少女の曲。

小さくイン。

小さくはいって大きくなっていく。ＣＭ

なんじゃそりゃあ。

時を×少女（後書き）

なし

わんこそば（前書き）

なし

わんこそば

どうやら、強面のおっさん。

年齢６０歳くらいか。やや不詳。

しぶいし、怖い。

浴槽に落とした石。

脱衣かご。

その事で

お怒りのようだ。

改めて、浴槽を見ると。

周りには、老若男女（さてなんて読むでしょう＞＞）

多数。

子ども連れもいる。

だが、みんなの眼は冷ややか。

怒られて当然の様。

暴力バーではないらしい。

あわてて、石を拾おうとするが、

体を流していないらしく、

さらに罵声を浴びる。

だがどうすることもできず、

腕を伸ばして石を拾う。

拾って脇の玉砂利に戻す。

全部は拾いきれない。

いいかげんあきらめて。

「ごめんなさあああい。」と弱々しく叫んで

この場から逃げ去る。

かごを脇に抱え、

浴場の向こう側にいく。

よくよく見れば、浴場の向こう側には、

脱衣所が整然と並んでいる。

なぜ、私だけが。。。

また音楽がインしそう。

頭がいたい。

多くの人のざわめき。

誰かが何かを呼んでいる声がする。

ここはど。。。

張りのある何かがふる。

声がする。

若い声だ。

慌てて、かごの中野、ものを。。。

ざわつきが大きくなる。

私を呼んでいる。

なぜ呼ぶ。どんどん、呼ぶ声が近づく。

突然。

誰かが私の前に立つ。

なぜ。

本当になぜ。

若い女性。２０代前半と思われる。

岩手のわんこそばの衣装?:?:のような。

かすりの着物を着ている。

赤い帯がまぶしい。

「◎◎様、行きつけのお店　大将。

大将のマスター様に選んでいただきました、

陛下もご賞味されたまんじゅうそばに

なります。」

なにを言っている。

なんで、私の名前を知っている。

行きつけの　大将。

なつかしい。断るが、

餃子のお店ではない。

少しうれしい。個人情報は流出しているが。

脱衣場の向こうに、テーブルが広がる。

わんこそば（後書き）

なし

白い巨塔（前書き）

なし

白い巨塔

広がったテーブル郡、

意外に部屋は思ったよりせまい。

１０畳くらいか。

いくつか、何か置いている。

自分の名前が殴り書きされている。

小さい四角柱の透明なストーンが

重しで置いてある。

その下には、

うちわの形の紙が重ねてある。

なぜか。

必勝！！！！！！！！

なぜ。

何に勝つ。

なににだあああああ。

意味不明。

手にとってながめてみる。

シールのようだ。

結構使えるかも。。。

なににだあああああああああ。

そして、その脇には、カード状のものが

重ねてある。

長方形の名刺サイズ。

赤の枠で囲ってある。

手の上に広げてみると。

赤の縁枠にまざって、

中に金色のゴールドのものもある。

さら、赤枠でも正方形のもの。

小さい長方形。

とうめいなラミネートのようなもの。

なんと、全部名刺。

「おまかせください。結婚は私たちに。」

婚活か。

ふと壁を見る。

Nが他県で婚活パーティ。

おいおい、ちらしだ。

万代橋そば。会場の地図がある。なぜここ関東でなくNがた。

絶対大丈夫。大丈夫なのか。

次。

大将に選んでもらった。

まんじゅうそばが食べられるらしい。

さっそく頼む。

その時。

向こうの廊下の奥から、

一列で歩いてくる一団。

どこかで、みたイメージ。

ゆっくりした、スローな感じ。

フラッシュバック。

後光がさしている。ぶろっけん現象か。

ドップラー現象か。

「「「白鳥先生の、総回診ーーーー。」」」

白い教頭。

白髪か。

もとい。

白い巨頭。

でも一列。赤い服が多い。

もしや、名刺の。

あわてて名刺を見る。

婚活アドバイザー集団だ。

温泉で婚活。なぜ。

それに目をうばわれ、

点になる。

あいよ。威勢のよい声。

突然。目の前に、そばがきた。

ずずずっと食べる。すする。

うまい。なんて言っていいかわからない味。

なんとも言えない味。

が、うまい。

一息で食べる。

食べ終わって、カードをそのままに、

奥へぶらつく。と言うか引き寄せられた。

奥は、ちょっとした近代工場のような、

白い白衣に、帽子を、マスクをかぶった人たちが

つけものをしわけている。

こぶりの樽から出して、それを別な樽につけなおしたり、

小さな袋や、タッパに入れている。

なんとなくうろつく。

近代工場のようなのに、なぜかロビー。

客が近くていいのか。

ギャップがはげしい。

突然。パパーーと呼ばれる。

誰のこと。

もしかして、

小さい3歳ぐらいの男の子が足にまとわりつく。

いつ結婚した。

というか、自分の子どもなのか。

あらたな結婚詐欺か。。。。

「なんだここに居たのか。」

しわがれた声。初老の男性が近づいてくる。

目は笑っている。

「探したぞ。おじさんも待ってる。」

わけもわからず、

一緒に、もと来た廊下を戻る。

子どもは手をつないでくる。小さな手だ。

戻り際、

誰かとすれ違う。

その時。

どしーん。

まさか。

なぜ。

背負い投げ。

後ろから投げ飛ばされる空中で、

時間が止まっている感覚。

スローモーションでながれていく。

床に、どしーんと、打たれる。

「まいったか。」

見れば、さきほどの浴場で私を激怒した

強面のおっさん。

ニヤリと笑っている。

このまま意識が無くなるのか。

目の前が白くなる。。。。。

白い巨塔（後書き）

なし

意識回復（前書き）

なし

意識回復

遠くで何かが鳴っている。

なんだ。

あの音は。

ずしーん。ずしーん。

よっ。

とう。

ずしーん。ずしーん。

よっ。

とう。

ずしーん。ずしーん。

ここはどこだ。

白いもやがかかった感じ。

天井の壁。

どこかで見かけた壁。

ゆっくり起きあがる。

何人も倒れている。

どうした。

何かにやられたか。

遠くに巨大な何か。

白い棒が４つ。

ひものようなものが取り囲んでいる。

リング。

そうか。プロレスの最中。

トランス状態に。

ここは学校か。

慌てて窓に駆け寄る。

校庭。

誰かが、声を出して

叫んでいる。

誰だ。

何が起こった。

目をこらす。

陸上部のY。

高飛び練習だ。

朝練やるなあああああああ。

うるさいーーーーーー。

そうか、あれは夢だったのか。

よかった。

悪夢だった。

意識回復（後書き）

なし

月光仮面（前書き）

なし

月光仮面

ほっとへたりこむ。
なんちゅうレクだ。
そのまま後ろにひっくり返った。
ざわめきを感じて起きる。
教室の時計が5時過ぎを指している。
もそもそと起きる。
なんとなく昇降口に向かう。
まだまだ◎◎テレビ。
起きていたような人々が集っている。
毛布を肩までかけてだべりこんでいる。
いろいろな場所から集ってきているようだ。
番組は続いているのか。
外で担任がたばこを吸っている。
背中が寂しい。

校門の方から誰か来る。
すごい早さだ。
何事。
どこかで見たかっこう。
教頭だ。
担任へつかかみかかりそうな
勢い。
らりあっとをくらわせそうだ。
すさまじい勢いでまくし立てている。
外ゴミ箱を頭上に持ち上げ、
だれかがせまる。
思いっきり投げる。
きれいな放物線を
描いて、
ゴミ箱。

がっしゃ００００００ん。

教頭。

固まる。

投げたやつを追いかけている。

１０代は早い。

つかまらない。

いちもくさん。

消えた。

すばらしい月光仮面か。

どーこの誰だか

知ーらなーいけれど。。。。。

昭和。

月光仮面（後書き）

なし

白い大きな入道雲（前書き）

なし

白い大きな入道雲

翌日

晴天がまぶしい。すかっとした青空。

そして、その日も暑かった。

軽く３５度は超えた。

レクに参加した全員。

校長もとい教頭に

反省文を書かせられた。

きっちり４枚。なぜ４枚かは謎。

ごめんなさい。ごめんなさい。と

果てしなく書く、猛者もいた。

「購買のパン、２個で請け負う」

との同学年他学級の甘い誘惑に

心ひかれたが。

（おいおい、代筆業者か。

こんなことで小銭をかせぐな。）

内申がどうたら言う輩はいなかった。

それぞれ、みんな学級学園祭だった。

と満足だったのだろう。

（他学級もマネしたがったが・・・）

ところで、

吉原T。YTは。

もちろん逃れられず。

４月のあの温厚さも

つゆときえ。

７月までの短い間だったが・・・

学校の関係者の多くを裏切り。

そんな先生じゃなかった。

うちらが変えたとの話も

上級生や、一部学校関係者から

ちらほらと。

もともとの性格を隠していたとの話も

ありけり。

幸いＰＴＡは騒ぎ出さず、

一部　Ｓ徒指Ｄぶ朝は、

そうとうのお冠だったが、

特に他学級への波及を警戒。

しかしながら、

Ｍはんや、看護学校の先生方が

すばやくフォローをいれ、

（なかなかよかったらしい。いろいろと）

重い処分や、飛ばされることもなく。

引き続き、うちらの担任。

ＹＴとなったのである。

めでたし。めでたし。

おーいそれでいいのか。

夏休み明け、空はどこまでも青く。
白い大きな入道雲が山からわき上がり、
そしてきっちり３５度超えの夏でした。

９月のことであった。

白い大きな入道雲（後書き）

なし

クレアラシル（前書き）

なし

クレアラシル

話を戻そう。

そのような不思議な国語担任。

ＹＴ。吉原Ｔ。

私は、国語に強くひかれたのだ。

キャラクターによるところも

大きかった。

今、考えると思う。

そして、ついに登場。

主役キャラ。

英語Ｔ。

クレアラシル。

解説しよう。

彼女は、英語のイントネーションを

私らに教えるべく、

口を大きく開け、
開けすぎて口の脇が
やや切れる。
そこで登場白い薬。
なぜか、みんながクレアラシルと呼ぶ。
今振り返ると。
口コミはこわい。
何かＥＴ（英語Ｔ略）が
「私は、皆さんのために、
皆さんのイントネーション向上のために
口が切れるのよ。●×△◇□□という薬を塗っているの。」
と授業中。熱演もとい
説得??したが
誰も薬名を覚えず。
以後、引き続き

クレアラシル。

謎が謎を呼ぶ。

クレアラシル（後書き）

なし

これでいいのか日本人（前書き）

なし

これでいいのか日本人

私は確信する。

小学校から中学校にあがって、

なんとかとかの教科で

少し英語をしたような氣もするが。

やはり、はじめのイントネーションが

すべてを決定したのだと思う。

学力は著しく低下した。

そして

2年で恐るべきことが起きた。

外国の先生が授業をすることになった。

いいのに、国際化に備えなくても。

学費もあがるからやめとこうよ。

うちらの心のつぶやきは関係なく。

そして始まった授業。

冒頭いきなり。

い・き・な・り。

ゲームをするという。

早口でルールを説明する。

わからない。

英語でなんとかといって、

ゲームはスタート。

なんとなく。

相棒（某ドラマではない）の

ところへ、

徐々に集まる。

「なんだべ。」

いきなり捕まれた。

廊下に直行。

後で知ったが日本語禁止とのこと。

英語授業は日本語禁止と後で
知った。

なぜ、説明を始めにしない。
したのだろう。多分英語で・・・・

「なんだべ。」

で私の英語人生は終わった。

これでいいのか日本人。

なんだかどっかの番組名だ。

これでいいのか日本人（後書き）

なし

暗黒時代（前書き）

なし

暗黒時代

こうして暗い英語時代を過ごした。

まさに暗黒時代。

思えば、ローマ字もかなり怪しかった。

登下校で街を行く。

車の後ろの、社名。

車の名がわからなかった。

ＴＯＹＯ●まる

ティオとか読んでいた。

スペイン人か。

ギリシアの人か。

相当やばかったらしい。

（友人談話）

ひいいていたらしい。

密かに。

本人には言えなかったそうだ。

もちろんそうであるから、

学力も低空飛行。

４０点が危ないと

言われていたが、

よく４０点だいをキープできた。

ときどき、砲弾にあたり

３０点圏内に落下しそうに

なるが、

友人の「これ、ＥＴのまちがいだぜ。」

で助かる。

本当に危なかった。

助かった。

あのとき、私は神を信じた。

追うまいごっど。

暗黒時代（後書き）

なし

スーザンボイル（前書き）

なし

スーザンボイル

本当に。

本当に、本当に。

しつこいが本当に。

つらい戦いだったが。

（特に英語。。そこを強調）

何とか私は生き残り、

次へのスタートにつくことができた。

（内容は、高校ラプソティ　純情編

本編終了後着手予定。「期日未定」

もし、後日お見かけの時は読んでおくんなさい。）

さらに、私は幸運の青い鳥。

もとい、黄色いはんかち。

もとい、白い北野天満宮のお守りのおかげで

本当に最後は神頼みしか残されていなかった。

父も、母も、お参りに行ってくれたらしい。

本当に、

本当に、本当に、

これで自分の人生。運を使い果たしたと

思った。

後で、

それがまちがいで

なかったことが証明されるのだが。。。。。

それは、また別の話・・・・

さて、3月。

職員室でも話題の、奇跡の人。

時の人。

D高校のスーザンボイル。

祝　卒業。

こうして

私は

九死に一生を得て、

ばかだ大学に合格することとなったのである。

桜がその年はやけにきれいな、春3月であった。

スーザンボイル（後書き）

なし

海辺の街（前書き）

なし

海辺の街

きりよく0時を回って
新しい章に突入できそうだ。

大学は、海辺の街だった。

それでも

圏のはずれだ。

なんでもその大学は、

はじめは都会から離れ、

心をきれいにし、

野に抱かれ、自然を愛し、

そして、あるところで

都心にうつるらしい。

何を心配しているのだろう。

しかしながら、私は金銭面で

助かったと思う。

そして、自分のあか抜けなさからも
よかったと思う。

とにもかくにも海ははじめてだった。
穏やかな海。
たおやかな海。
誰かと行くのだろうか。
そんな事を流れゆく
電車の窓から考えた。

そして、
まったく。
海を見て、
山さくらしていたけろ。
とってもめずらすかったけ。
言いそうになった。

本当に田舎者であった。

部屋の真ん中に座る。

空虚な時間が流れる。

何もない。

夕方の赤い日がかかる。

暗くなる前に

出かけた。

角をまがったすぐに

全国チェーンのＣＭでおなじみの

コンビニがあった。

近い。

迷わず入る。

学生街か。

集っている。

そして、

夜

一人で

がらんとした部屋で

３５０のビールを飲んだ。

コンビニで未成年ですか。

と聞かれたらまずいと

思ったが、

そこら中で

学生が飲んでるのか。

何も聞かれなかった。

はじめての飲酒。

一口飲む。

心底。

苦かった。

今の自分を指しているのか。

学校で

あれだけ、

皆が

騒いでいた。

泡の出るジュース。

まずかった。

氣がしれなかった。

泣けてきた。

（テレビは欲しいと。。。。）

海辺の街（後書き）

なし

ダチョウ倶楽部（前書き）

なし

ダチョウ倶楽部

そして

自分でわからなかったが

なんだか落ち着かない

華やかな雰囲気だからか

なぜだ

女子が多いからか

全体の４分の１しか男子がいない

聞いていない

（ダチョウ倶楽部か）

（いやかえってダチョウ倶楽部くらいの

明るさならよいが・・・）

氣が重い

ばんがらな自分には合わないと

思った。

男子高出身者には

つらい

まさに

慣れていないからだと
思う

チャラチャラ系男子も
多い

そのようなところが
ところどころ

ぱあっと盛り上がっている
それで全てかと思うが

沈んだところも
つらい

テンションのやたらと
高いじょしーには

目のやり場に困るし

愛想笑いも疲れる

そして

一歩間違うと

怪しい人

左右に座るのも
もちろん
じょっしー

氣疲れ

椅子の左右の肘当て？
も考えもの

どーんと座りたい。

式が始まって

何人目か、

何人か忘れたくらいの来賓の挨拶時。

突然。

春休み

暇でみたＣＳの

健さんを思い出した。

男はだまって。。。。

自分にもあの生き方が出来るのだろうか。

世界が違いすぎる

ダチョウ倶楽部（後書き）

なし

21話の後に読んでください　おハイソ（前書き）

なし

21話の後に読んでください　おハイソ

インターネット接続トラブルによる
21話の後のこちらが22話です。

22話は、23話になります。
訂正いたします。
重ねてすみません。

上京してしばらく、

入学式があった。

ややハイソな感じのする

自分に似つかない

テレビ的な

学校だと思った。

おしゃれだ。

ただ、沿道の桜はきれいだった。

校舎か。

本当に綺麗だった。

満開が過ぎ、
散りゆく景色が
心を揺さぶった。
予備校に通うA。
家業を継いだS。
敗者の弁か。

自分は
よくまあ、上京できたものだと、
金銭面を含めて、おふくろに感謝した。
そして、
驚くべきことに、
当時、別なおふくろさんも世間を
にぎわせていた。
ぼうを持った人の家が、

自分の家におもかげが似ていた。
落ち着かない学食のテレビで、
見た。
視線に困ってテレビなのか。
そんなことを覚えている。
式には、
母は、上京はしなかった。
同じく無骨な父も。
同じだった。
式では父兄の姿が目立った。
ブランドがわからない私にも
一見で高いとわかった。
自分は、量販店で買った。
恥じてはいない。
ネクタイも

結べず、

小一時間苦戦した。

21話の後に読んでください　おハイソ（後書き）

なし

トンネルを抜けると・・・（前書き）

なし

トンネルを抜けると・・・

トンネルを抜けると
雪国だった。
遠いどこかで
誰かが言っていた。
その静寂とは別に
とても
ざわついている。
いや
浮かれた雰囲気だ。
N県の県境まで行くらしい。
山
また
山の感じがする。
さすがに高速なので、
風情は遠い。
すうっと流れる感じがする。

バスは何台も連なっているそうだ。

私は、

やや寝坊し、

本当は

行かなくてもいいか

と考えた。

しかし

学生課の職員に

行かない者は

「お尋ねものになる」

「私の言うことを聞きなさい」

３０代後半　女性職員

みつこ

に言われ

やや高圧的

いやかなり高圧的

というか脅迫か・・・
最後まで抵抗したが
名簿に
一つだけ
見事にぽっかり
空いている空欄に
○をつけさせられた。

トンネルを抜けると・・・（後書き）

なし

君の名は。。。（前書き）

なし

君の名は。。。

大学を続けるか。
それとも。

それが踏み絵らしい。

担当教官への

学生のお披露目もあるので

絶対の参加
服従？
だそうだ

大学は自由な思想？
ではなかったのか。

そして

来ない者は

左遷！！！

村八分の

憂き目にあうらしい。

そういった流れ者に

憧れる自分が
こわい。
しかしながら
昨今の少子化
大学としても
いきなり
退学者を出すわけには
いかないと考えているらしい
・・・・
それが踏み絵と説得か。
果てしなくだるさを感じる
話をだいぶ前に戻す
実は
入学式でシラバスという

電話帳かと
見違う冊子を渡された
この帳面から
自分の
選択する単位教科を
選ぶらしい
調子のいいヤツは
そこから単位が簡単に取れるものを
入部しようとしている
いや
するのか
サークルの先輩から
聞き出すらしい
もちろん
私は
まだ開いていない

おそかれ
はやかれ
また
みつこに呼び出される
であろう。

（もちろん
みつこは私が
勝手に付けた名前なので
本人の名を知らない。
君の名は。。。
どこかで聞いたフレーズだ。）

君の名は。。。（後書き）

なし

偽善者（前書き）

なし

偽善者

そんな私であるので
自分がどこに所属しているか
わからない

発車ぎりぎりの
バスで
多分
私がこないだろうで
いらつく
学生課職員　よしおに

学籍番号を言い
最後のバスであるこのバスに
よしおと共に乗り込んだ

いや押し込まれた。

本当に流れ者はいなかったのか

あと少しで流れ者に
なれたかと思うと

また
健さんを思い出し
少し

涙ぐんだ

去る者は追わず。
後日談だが
去る者が若干名いたそうだ。

永遠にたどりつかない
尊敬。

さてそんな
私の氣持ちにはおかまいなく
バスはどんどん進んでいく

はじめの頃こそ
携帯片手にぺこぺこ
頭をさげ

さも私は悪くないを
演じていたよしおも

快調にすすみ
先発隊に
近づくことを

確認できると
不機嫌さがなくなったようだ
しかしながら
それに反比例しながら
私の心は沈んでいく
何年も前からの親友
みたいな顔で
座席でしゃべる
周りの人々
なぜか
最後尾が空いていて
本当によかった
みんなの無言の
追い立てか。
一人だ
すがすがしさもあり

少しの寂しさも
あるが

氣疲れするよりは
ましか

どこでもいる

おせっかいな
ヤツが菓子を
まわしながら

情報収集にこないうちに
眠ってやろうと

眼をとじた

幸い自分のアピールに
精一杯の人々だらけで

一握りの

偽善者もなく

平和に

私は

深い眠りにつくことができた。

偽善者（後書き）

なし

友だちごっこ（前書き）

なし

友だちごっこ

起きるとバスは止まっていた。
誰もいない
はっとするが
どうやら休憩のようだ
よしおのいびきが
最後尾まで聞こえてくる
みんな青空の下
湖畔で戯れている
遠くに名のある
山が見える
歓声をあげ
しきりにデジカメで
写真を撮る集団
お互いに撮り合い
仲間意識を
作っている
偽りの時間

友だちごっこの
はじまり

ふと見ると
それらの輪にそまらず

ベンチで座って
はぐれているものをいる

何かのポーズか
誰も声をかけなくても
動じない

すがすがしさを感じる
一人を楽しんでいるのが
伝わる

すごい
感心した

誰も氣づかない
心の強い
芯がある

窓からしばし眺める

もしかしたら
観察していたのかも
しれない

身長は高め１７５ｃｍくらいか
もしかしたら１８０はあるか

すらりとした姿勢
優雅な横顔

知的な漂い
目鼻立ちはっきり

日本人でないような
感じもする
ハーフか

オーラがでるのではく
自然な感じが素敵だ。

つかのま
ぼんやりしていると

時間なのか
三々五々
皆がバスに乗り込んでくる

何事もなく出発
私には何かあった。

友だちごっこ（後書き）

なし

合宿所（前書き）

なし

合宿所

研修所に到着した。
随分と時間がかかった
４時間弱か

夕焼けがまぶしい
そして
まだはやいが新緑の息吹を感じる

確実に空氣はおいしそうだ

真新しいうすいクリーム色の外壁

幾何学的な形の小窓

合宿所は
ちょっとしたしゃれたホテルの
ようだ
大学の持ち物らしい

先発のバス数台は
もう到着し
どんどん学生が入り口にすいこまれていく
砂糖に集まる蟻か

べつに私に砂糖はいらない

正面玄関で学籍番号を探す

学生課若手職員が教えてくれた

男子の数は少ないので2人部屋の個室だそうだ

一人を祈るがこれだけの人数　そうもいくまい

丘の地形をそのまま使っているからか
曲がりくねった廊下をすすむ

いくつかの棟の
つきあたりが私の部屋だった

せまいことを覚悟したが
外見だけで中は意外に広かった

簡素な机が2つ

合宿は意外に
3泊4日も
あるのだ
学習会もある

相当、懇親を深めたいらしい

孤独からの自殺者を減らす目的か
考えすぎか

大きな窓

ベッドは2段になっている
本当に簡素な作りだ

相方は来ていない

このままこないことを
祈る

合宿所（後書き）

なし

どんぐり（前書き）

なし

どんぐり

そこへ
突然扉が開いた
物静かな
ややずんぐりなどんぐりが
いや
男が入ってきた

名乗りはしない・・・無言

まあ　これくらい
静かな方がありがたい

きらりと笑いながら
よろしくとか
握手とかされたら
たまらない

こちらから名乗る

普通の対応、
なぜ普通を装うのか。
悪い自分。

はじめからべたべたするわけではないが
二人で夕食会場に向かう

大きな食堂だ
まあ学食か

バイキング形式
すごい人だ

あの中に入るのはつらい

窓辺の席で待つことを
どんぐりに告げる

どんぐりは腹が減ってたまらないのか
さっさと躊躇せず進む

人を見るだけで疲れる

まわりを観察する
手詰まりで煙草が吸いたいところだが
もちろん灰皿はない

窓の外の暗闇をみる
真の闇
暗い

背の低い
薄暗い街灯に照らされて植え込みが見える
よく手入れされている

作られている世界
群がる人々

はずれるのは簡単そうだ

どんぐりを探そうとしたが
もちろん見あたらない

それにしてもあの人だかりに
突進していく
どんぐりの勇氣
尊敬に値する

どんぐり（後書き）

なし

山盛りポテト（前書き）

なし

山盛りポテト

ぼんやり探しているとテーブル7つくらい向こうに

あの湖畔の女性がいた
一人かと思いきや

ちゃきちゃきした小柄な
少女??が立ち回っている

かいがいしい

こちらには氣付いていない

それがいい
それがいい

どんぐりが戻ってきた

おぼんにたくさんの
おかずを載せている

ちゃんと私の事を忘れずに
こちらに来る
律儀だ

なんだか食べるのがどうでも

よくなった

近づいてきて
どんぐり
いきなり山盛りポテトを
私に寄越す。
ケチャップのスティックもつけ。

取るのが好きだとかなんとか言って
これも食えと言って
ケンタッキーのような若鶏もも肉も
ずらしてくる

悪い奴ではなさそうだ

すごい勢いで食べて
また戻っていく
食事と真剣に向き合っている

私は一つか二つポテトに手をつけ

なんだかお腹がいっぱいになった
氣持ちよく食べるのを見ると

こちらまで十分な感じだ

今度はサラダとデザートを
持ってきた

コーヒーだけ遠慮無く

いただく

山盛りポテト（後書き）

なし

ミーティング（前書き）

なし

ミーティング

人の出入りがあわただしい
うちらから４，５テーブル向こうの
中央の通路を

黄色い歓声を
あげて通っていく
グループの多いこと。。

この後
ミーティングという名の
顔合わせが
体育館であるらしい

文学部全体で
顔合わせとは
何人になるのだろうか

１００は軽くいるだろう

どんぐりが言うには
全学部は無理なので

いくつかの学部ごとに
時期をずらして合宿するらしい

文学部、教育学部がうちらのチームらしい

はじめて知った
というか、学生課みつこ
言えよ

あんなにバスに乗って
２学部とは

何が少子化だ。

ばか田大学のブランド恐るべし

どんぐりは続けて
工学部、経済学部なんたらかんたらと
学部を教えてくれたが
なんちゅう数の学部だ

唖然

学部にわけのわからん名前をつけないでほしい
純粋に研究したい
おまえが言うか

というかそういう私も何を基準にこの大学を
選んだのか今さらながら意味不明

高校スーザンボイル事件

へたな鉄砲も数うちゃ当たるか

人生そんなに甘くないと
進路指導Tはしみじみ言っていたが

それこそ
沖縄でめんそーれか
北海道の北のはじか
そこまで考えれば
なんとか口もあったらしいが

それとてさっこんの
夢見がちな学生によってどんどん
浸食されはじめているらしい

よくまあここまで
こられたな

それより体育館でどうするのか
学部対抗バスケ大会（笑）するのか

（きっぱり）あり得ない。

ミーティング（後書き）

なし

禁煙（前書き）

なし

禁煙

よくまあ、あれだけ食べれるな。
というほど食べ、
私が遠慮したポテトもたいらげ

「テレビで野球を観たい。」

どんぐりはそう言ってどこかに消えた

私も煙草が吸いたくなり

歩もうとして

果たして吸えるかと考え

この人混みでさがすのも

おっくうになった

バスではなんとなく

沈んだ心で健さんだったので

我慢できたが

いよいよ禁煙か高3の追い込み以来か

なにはともあれ、体育館の裏手でも

行ってみるか、どうせ集合場所だし
という軽い氣持ちで
出かけた。

（！！！この思わぬ氣まぐれが
彼の人生を大きく惑わすとは・・・）

続く・・・・

というか、いつも続いてるやろ。。。。

（そんなこんなで大型時代劇　もとい　青春群像活劇
風のグラスゴー・・・
まだまだ海外にはたどりつきまへんで）

禁煙（後書き）

なし

体育館裏手（前書き）

なし

体育館裏手

「よっしーーー。。。。」

何を言っているのかと

思った

なぜ、わしの名を呼ぶ。

ていうか人違いだけど。

もちろん。

そして、なんで人けのない

こんな体育館裏手で

誰かを呼ぶ。

逢い引きか（ふるっ）

ここらの周りは、背の低い街路灯はあるが

いかんせん灯りは暗い、かなり暗いと思う。

はじめは

勘違いしているのだと思った。

こちらは、煙草を吸おうと思ったら

まさかのオイル切れ

なんでやねん。自分で自分にどつく

というか、呼んでるのだれえってかんじ

まさに、任侠映画の「おんどりゃ。どたま　かちわるぞ。」的状況。

よくわからない。

まだしつこく呼んでいる。

「よっしーーー。。。。」

携帯で呼び出せよ。

あるいは呼び出されたか。

さすがにこの闇におそれをなしたか、

呼んだはいいがこちらにはこない。

ざまあみろ。

誰に言っているかもわからないが。。。。

そんなふとした油断をけちらし

悪魔はやってきた。

ちゃき。

はっちゃき。

そう、はっちゃき。

さっきの食堂の。

ガシーーーーン。

軽い脳しんとうを起こしそうになりながら
いや起こしたのか。
倒れそうになる。

あの
小柄な少女。
いや、少女とは言えない。
うちらと同じ年代。

なんであなたがここにいるの。という感じ。

そして、なんでラリアットなの。

「よっしーーー。。。。」って誰って感じ。

消えゆく意識でそう思った。

そして、眼の片隅にあの湖畔の女性がいた。

体育館裏手（後書き）

なし

幸せの黄色いハンカチ（前書き）

なし

幸せの黄色いハンカチ

氣が付くと
体育館の雨を打つ砂利
犬走りに寝ていた
どのくらい
寝ていたのだろう
遠くからざわめきが
それが
すぐ脇の体育館の外扉の中だと
わかるまで
数分
いやもっと短かったのか
ざわめきが大きく聞こえる
外扉を開ける
まぶしい
始まるところだったらしい

扉を閉めてそこに佇む
というか氣を取り戻す
なんちゅう人の多さやねん
演台で挨拶が始まったらしい
急速に馬鹿らしくなってきた
そして体育館裏手にちゅうこーでもあるまいし
行った自分が情けなくなってきた
自分に嫌氣がさし
部屋に戻るべく入り口に向かう。
くだらない話はまだ続いている。
そして、そこに例によって学生課よしおが待ちかまえている
そういやこいつもよっしーかー。
「ちょっと頭がいたくて」
よしおに言う。
確かに倒れただけあって顔が青かったのだろう
何も言われず
行ってよしの片手ふり。
こいつは氣概なしと思われたか。

まあいつものことだ

部屋に戻る

後ろから、なにかアトラクションか
ゲームが始まったのか

大きな歓声がする。

やっぱり学部対抗バスケ大会
当たりか。

俺がいなくて、文学部は損したな。

幸せの黄色ハンカチの武田鉄矢のように

捨てぜりふを吐く。
なぜか笑いがこみ上げてくる。

幸せの黄色いハンカチ（後書き）

なし

松田勇作

今までにない
人混み

そしてバスでの疲れもあって
横になったとたん
眠ってしまったらしい

ふと氣がつくと
時計は午前2時・・・

ここはどこ。一瞬。
どこにいるのかわからなったが

そうか合宿に来ていたことを
思い出した

毛布がかかっていた

どんぐりがかけてくれたらしい

氣遣いの男か

ジャージに着替えてベッドに入る
ドングリは仏様のように
安らかに眠っている

デブはいびき、偏見は崩れた。
・・・・
少し眠れず
今日の出来事を反復する

なぜラリアットなのか
そこが一番だ。
いろいろ考えるが答えが見つからない
このまま眠れないか
羊でも数えるか
と思っていたら
寝てしまったらしい。

カーテン越しの
やわらかい日差しで目覚める

嘘ではない純な鳥の声が、まぶしい

もう片側の壁側のベットの
どんぐりがいない

カーテンを開ける。
新緑になりかけた木々の新芽がまぶしい
窓からは見渡す限り森しか見えない
森の合間を建物が見え
それらをつなぐ廊下が延びている

森にあって調和がとれている
なんと広い合宿所だ

昨日はわからなかったが
大きな山が正面に見える
ここはその中腹だったのか

静かに椅子に座り
朝のすがすがしさを味わう
海辺のカフカで
あの街も
すがすがしさもあるが
やはり広大な森林にはかなわない

コーヒーがあればいいな

白いスマートな帽子が
入ってきた
誰かと思ったらどんぐりだった
なんとも洒落た格好をしている
良家の子息か

格好を褒めると笑いながら
量販店のジャージだとのたまう
時代は変わったか

そういやいつも体育は
小豆色の高ジャー
寝間着のジャージも
お袋が買ってくれたまあ普通のやつ

自分に合っているかはわからないが
悪くもない

何処に行ってたか尋ねると
ジョギングしていたらしい
見ればジャージが汗ばんでいる
動けるデブか

どのくらい走ったのか聞くと
3，40分くらいだそうだ
普通という
ハーフマラソンに前から挑戦しているらしい
なんじゃそりゃあ
松田勇作　台詞が違う

恐るべし
爽やかとしか言えない健康的デブ
繰り返すがデブの範疇を超えている
超人デブか

松田勇作（後書き）

なし

青い缶（前書き）

なし

青い缶

手に何か持っている
青い缶

コーヒーだ

無言で私に投げてくる

さすがどんぐり
気遣いの男

温かいのがよかったが
贅沢は言えまい

飲みながらここらの自然の素晴らしさを聞く
嫌みに言わないのが氣にいった
自分も走ったような錯覚
やってみようかとも思った
タバコ吸いにはまあ無理だろうが

昨日の様子をどんぐりに聞く

体育館にパイプ椅子が並べられて
合宿のオリエンテーションだったらしい

そうとうラリアットが効いていたらしい

パイプ椅子など氣づかなかった

文学部の半分と、教育学部の半分ずつが
この合宿で集められたそうだ

あれで半分ずつとは、なんちゅう大学だ

青い缶（後書き）

なし

洋なし（前書き）

なし

洋なし

昨日の様子をどんぐりに聞く
体育館前方
ステージ前に整然と
パイプ椅子が並べられ

いやはや
そうとうラリアットが効いていたらしい
パイプ椅子など氣づかなかった

世に恐ろしや
部屋割りどおりに
パイプ椅子の背に
番号が振ってあったらしい

うちらは囚人か
そこまで管理するか
あざとい。

さらに言うなら
部屋割りは学籍順らしく
私の学籍は０４２４７４

これもおもしろくて
思い返せば
カードをもらった時
一瞬

世に用無し（洋なしでもよかったが）と読め

史学、年表覚え過ぎ、
そんな読み方をする自分の
あまりのばからしさに笑ったが

どんぐりは、０４２５０２
その差、２８名

男子は極端に少ないので
ご縁というわけか。
そりゃあそうだわ、男子と女子を一緒の部屋に
するわけにゃあいかないし（笑）

そうして
そうやって誰がいないか監視しているのだとか
ばからし。
でもそんな逃げだす度胸のある奴なんていないんだね

なにしろ座席は、みんんなうまって。
どんぐりの隣だけポツンと空いていた。
そうだ
かえってどんぐりが恐縮したらしい。

大笑い。なんてったって。
私は、よっしーーーに許可もらったかんな。
意外に役立つな、よっしーーー。

さてさて内容は、合宿のオリエンテーションだったらしい

文学部の半分と、教育学部の半分ずつが
この合宿で集められたそうだ。
それにしても
あれで半分ずつとは、なんちゅう大学だ。

人の集めすぎ
しかしそうでもしないと
経営が成り立たないのだろう

洋なし（後書き）

なし

お代官様（前書き）

なし

お代官様

内容は前に入学オリエンテーションで
説明された話をなぞる話が多かったそうだ

入学オリエンテーション
初耳だ
参加していないもの
若干一名

どんぐりやや驚くが
そこでとばかりに
メモを見ながら丁寧に教えてくれる
学生課の説明はまどろっこしそうだから
いかなくて正解か

1年次は教養講座。
2年次でゼミに入部すること

教養の単位はざっと以下のようなものがあること。

倫理学、法律学、法律概論、経済学、地理学、史学、哲学、
言語学、化学、環境、情報、情報科学、自然学、書道、
芸術、美術史概論、自然科学、数学、英語、ドイツ語、
フランス語、スペイン語、中国語、そして体育。

っていうか体育まであるのか。

さらにまだまだあるらしいが一般的なものを

教えてくれた

そして、外国語は、複数選択なので要注意とのこと。

2年次からは、ゼミや専門教科が始まるので
1年で習得するのが望ましいこと。

合宿最後の日までに、マークシート式のシラバスを提出すること

そう言って緑色のセンター試験の時にお目にかかったような
紙をひらひらさせる
なんと2枚もらってきてくれている

さすがに健さんも授業にいかないと
放浪の寅さんになってしまう

どんぐりとも
何かの縁。
腹を決めて
どんぐりに教えを請おう

しかしながら
なんのことはない、
要は、シラバスの回収と仲間作りか
大学もよく考えたものだ
そんな奴らの思うつぼも癪だが

まあ、説明会に行かなくてもシラバスを出す
ことでチャラとするか

何をやっても平均点以上
どんぐりは説明もうまい
学生課でもやっていけそうだ
よっしーーー。の小狡い顔が浮かぶ

どんぐりに聞いてみる

もし教養がうまくいかなかったら
留年になるのか

それはない。
どんぐりは即決
そりゃあよかった

2年次、自分の希望学科に不利になるのか
という質問は、

したりという顔をして
いい質問です。
と言わんばかりに

そこは質問が集中し
皆の関心があったそうだ

ただ、学生課は一言。

自分の希望学科に不利になるかは、
ないことはない。

追って沙汰する

代官様か
あくまでもお上だ

理路整然系学生が、説明を
求めるが

質問は打ち切られ
そこでオリエンテーションは終了
したそうだ

秘密かい。

お代官様（後書き）

なし

赤いミニーのしゅしゅ（前書き）

なし

赤いミニーのしゅしゅ

どんぐり。
帰り際おもしろいことがあったそうだ

１９時からの説明会
教授の挨拶も長かったが
学生課の合宿諸注意というながながが
くどい説明もあって
要は、はめをはずすなというお達し。
終わったのは２１時半過ぎ
どんぐりに悪いが
いやあ出なくてよかった

くたくたで足取りも重く帰る際
肩をたたかれたそうだ
出口で張ってたんだろう

身長１６０ｃｍくらい
小柄
ボーイッシュな髪型
赤いミニーのしゅしゅ
ジーパンのポケットから
ミッキーのストラップがじゃらじゃら
女子

しっかし、どんぐりよく観察してるよ
シャーロックホームズ
何やってもそつがない

そして
相棒はどうしたと聞かれたそうだ。
伝言として
「明日、朝食会場で待つ。」
「場所は、夕飯食べた場所と同じ所に座るとのこと。」
言うとすたすたと行ってしまったそうだ。

後ろに、背の高い１７０ｃｍくらい
モデル系
ハーフ美人
風と共に去りぬのスカーレット・オハラに
似ている
服装は地味。Ｇパンにトレーナー
さすがシャーロック。

赤いミニーのしゅしゅ
なにかピンとくるものがある
ラリアットの時
スローでよみがえる
髪の束の振り向きざま

はっちゃきだ！！！！

赤いミニーのしゅしゅ（後書き）

なし

吹奏楽部定演　～祝　４０話～（前書き）

なし

吹奏楽部定演　～祝　４０話～

はて、どうして
どんぐりがわかったのか

どんぐりに尋ねると
何度か休憩があって携帯をいじっていたら

何度かその女性のような人を
見かけたそうだ

よくもまあ、広い会場を
何人いたんだろう
探したんだろうな
向こうとしても
ラリアットくらってどうなったか
心配だったんだろうし

そして次に
風と共に去りぬを懸命に
思い出す

そういや
高３の夏。
無理矢理買わされた
吹奏楽部の定演のチケット
確か
パンフの表紙がそれのぱくりじゃなかったか
思い出せない

困っている私を見てどんぐり
携帯をいじって検索
オハラを出してくれる

ああの顔か
合点がいった
ヴィヴィアン・リーだ

そして
もしかして
湖畔の女性か閃いた
いわくを感じる

時計を見ると、7時とすこし
朝食は昨日と同じ場所
7時から8時半までとのこと

慌てて着替える
どんぐりは
シャワー室に行ってシャワーを浴びるとのこと
すまない、長い話につきあってくれて

氣はすすまないが
食堂の夕食の窓辺の座席で
落ち合うことを約束　わかれる

吹奏楽部定演　～祝　４０話～（後書き）

なし

風と共に去りぬ（前書き）

なし

風と共に去りぬ

どんぐりが出て行った後
急速に行くのがめんどくさくなる

逃げているのか

７時半になったが行く氣がおこらない

遅かれ早かれ。
遅かれ早かれ。
つぶやくようにして部屋を出る

食堂を待つ列が続いている
１０分待ちか

座席などないだろう
部屋に戻ろうとくるっと回れ右したところ
突然。
後ろ手に襟をつかまれ
食堂に引っ張っていかれる

ちらっと見えた
色は違うが、ミニーのしゅしゅ
今日は緑だ。
殺気だった様子に。
何事という感じで長い列が脇によけられる

そのまま窓辺の座席に

どんぐりが恐縮している
問い詰められていたのだろう
シャワーを浴びてさっぱりしたのに

申し訳ない、片手で拝む

やはり、はっちゃきだ

そしていきなり
「謝れ」と言う

なんのことか

続けて
「ストーカー」
と言う
単語のみでしゃべるので
よくわからない

見れば
ああ、湖畔の女性がいた

なんでわたしがストーカーなのか

聞けばバスの窓から私をずっと見ていたとのこと

自由さにすがすがすしさを感じていた
と思っていたが

殺気を感じていたか

確かに
遅刻はする、怪しい風体だ
つるまない
最後部で一人きり

あやしい

怖がるのも無理はない

いつもご愛読ありがとうございます。

風と共に去りぬ（後書き）

なし

小心者の一市民（前書き）

なし

小心者の一市民

いきなり話が重くなるのも
なんなんので
緑がきれいで、空氣がうまいですねえ。
タバコもうまいですよ。
あははははあ。
と、のたまう。
タバコを出して
吸おうとしたが
もちろん灰皿はない。

自分のキャラと全く逆。
入学式チャラ男系をしてみたが
逆にひかれた。
どんびき。
まあ、そりゃそうだ。

「何でラリアットしたんだ。」
いきなり核心にふれた。
思い切って尋ねてみる

「痛かったぞう。」ややおとぼけも加え
顔もしかめてみる。

無言。
相当悪いことをしたのか私。

小心者の一市民なのですが・・・

オハラがしゃべり出す
「なぜ、私を見ていたのですか？」

どきりとするが
正直に話す。

輪にそまらず
ベンチで座っていてすごいと思ったこと
誰にも声をかけられなくても動じないことに
すがすがしさを感じたこと
誰かとつるんでいないといけない学生生活
うわべだけの友だち
本音のない関係
自分は疲れていたと伝える

そこに
一人を楽しんでいるのが伝わり
すごいと感心した
自分にはできないと思ったこと

彼女は心が強く、芯があると思ったことを話す。

オハラが語り出す
「実は私、いじめに遭っていたんです。」

小心者の一市民（後書き）

なし

ミッション系の高校（前書き）

なし

ミッション系の高校

彼女は、
父、母とともに
フランスに住んでいた。

父は、
一時期名を馳せた
世界的に有名な証券会社に勤務し
ロンドンに継ぐ、ヨーロッパの
砦としてその仕事は多忙を極めていた

そんな多忙な会社に嫌気がさし
会社が無くなる前に
父が転職したのは
先見の明があったとしかいえない

母は日本人で
何年もの外国暮らしでひどく
日本に帰りたかったこともあったらしい

こうして家族は
彼女が高校2年生の初秋
日本に来た
彼女にとって
里帰りで何度か日本を訪れていたが
暮らすのは初めての土地であった

父は、その温厚な人柄と

人脈の広さで
すぐ横浜の貿易会社に勤めることになった
友人がいて一緒に働かないかと
誘ってくれた事が大きかったらしい

父は素振りは見せなかったが
母のためとはいえ、
後先考えずに会社をやめたので
今後の人生に一抹の不安も
あったらしい
フランス人らしくない
保守的な考えでもある

友人の貿易会社は
小さいながらも家族的な雰囲気で
やめた会社と比較しても
しょうがないが
そこがひどく氣にいったらしい
今も、フランスと日本を
行ったり来たりしながら
仕事を手伝っているそうだ

さて、母は
日本に戻っても相変わらず
専業主婦で
優しく、夫と娘を見守っていた

母が一番心配したのは
娘の教育で
とかく日本は帰国子女に冷たい

ことを彼女は
長年の外国暮らしで知り得ており
日本の役所の
縦割りでもあり
建前主義でもある
ところも
彼女自身の手続きとってもみても
十分おつりがくるくらい
身にしみてわかっていた
そして
実際のところ
子女には日本はあたたかく
なかった

やはり
先を見越して
小さい頃から
日本語を丁寧に教え
読み書きを特訓していたが

この日に備えてきた
甲斐があったと思う

また、フランスで通っていた高校も
よかった
それは日本のいくつかの
ミッション系の学校と
姉妹校を結んでいたからだ

ほどなく

F女子大付属の高校に
編入することができた

繰り返すが彼女が
高校2年の初秋9月であった

ミッション系の高校（後書き）

なし

野バラ（前書き）

なし

野バラ

街としては
大きすぎ
高層の建物が多いが
そこはかつて
避暑でよく何週間も滞在した
ニースに似ていた

坂や意外に多い緑が
そういわせたのか
しれない

坂をのぼると
教会が見える

わざわざ
出迎えてくれた理事長は
まさにシスターであり
フランスから
異国の地
日本に来た
彼女に優しかった

学校は伝統ある
お嬢様学校であった
その進学先は有名な
Tをはじめ、K、A、J大など
幅広かった

普通科2年に編入され
彼女の新たな高校生活がスタートした

さすがに何回も
外国からの
転入生がきており
珍しくないのか
帰国子女のオハラは
すぐに
とけ込むことができた
が
やはり母仕込みの
ジャパニーズが
ものをいったらしい

まわりを取り巻く友人は
一様にフランスでの生活を
聞きたがった
彼女はきわめて
丁寧にかつ親切に一人一人に
応対した
全くえらぶるところはなかった
夏の入道雲　猛暑がさり
残暑とよばれる暑さが
続き
季節は秋になろうとしていた

その日
いつもどおりに

彼女は登校した
残暑ながらも
過ごしやすい季節になってきた

朝、いつものように
グッドモーニングと
言って教室に入室する
が
その日に限って
彼女の周りには
いつもの友だちはこない
軽い違和感を感じながらも
いつも通りに授業をうけた
しかし
休み時間は2、3人の子が
話に来てくれて
自分の心配は杞憂かと
思った

ところが朝は
次の日も同じであった
そして
休み時間は
誰も話しかけてこなくなった
こちらから話にゆくと
なんとなくさけられている
感じがした

ある日の音楽の時間
わらべは〜みいたあり〜

のなかのばあらあ～
宝塚のような
かといってどこか懐かしい
歌を歌い終え
みんなが教室を出ていった後
オハラは女教師に
呼び止められた

音楽教師は若い臨時の先生で
外国での留学経験があるらしく
なぜかとても氣さくな女の先生だった
何度か彼女と話をしたことがあったが
呼び止められたのは
はじめてだった

彼女は誰もいなくなると
こう言った
「野バラよ」
「野バラには氣をつけなさい」

その事をつたえると
何事もなかったように
彼女は準備室に去った

まだ
その意味が彼女にはわからなかった

野バラ（後書き）

なし

百合様（前書き）

なし

百合様

あいもかわらずの毎日だったが
オハラは学校に休まず登校した

そして
休みをはさんで次の週
オハラが転入してからずっと
空いていた席に人だかりが
できていた

いつものように
オハラが
転入してからずっと
欠かさずしてきた挨拶。
誰も返す者がいなくても
する挨拶
グッドモーニングと
言って教室に入る

突然
その人だかりの中心の
小柄な女性が
オハラに駆け寄ってくる
グッドモーニング。

ニコッと笑う笑顔が
人なつっこい
オハラは思わず泣きそうになってしまった

何日ぶりに
挨拶をしてもらったのだろう
思わずハグをする

その瞬間

教室の空氣が
止まった

その異様な雰囲気に
すぐに
ぴーんとくるものが
あったらしい

髪の毛もぼさぼさの彼女は

窓際に佇む一人の生徒に向かう
それは学級で
いつも上品で優雅な
感じを漂わせ
みんなが百合様と呼ぶ
女性であった

また、おめえ
やっちょるのか。

一瞬なんの言葉だか
わからなかった

百合様は

優雅に笑うだけであった
なぜかその時だけは
取り巻きを感じた

場にそぐわない
爽やかなチャイムがなり
廊下のざわめきが聞こえる
担任が来るのであろう

百合様のまわりにできそうに
なった輪が
自然にくずれる

しばらくすると
臨時音楽教師が入ってきた
何事だろうか

百合様（後書き）

なし

裏ボス（前書き）

なし

裏ボス

「はーい席について」
とても元氣がいい明るい女性だ
「あらっ、戻ってたのね。」
そういって
例の助けてくれた女の子と
握手する
自然な感じだ

「おはよう。担任は急な出張で
出かけてるので私が来ました」
あいかわらず明るい
担任の出張がこうもうれしい人も
いるまい

何氣をよそおって
窓側の百合様を見る

知らなかった・・・

優雅であるはずの彼女が
ひどく憎々しい顔をしている
やはりそうとう
くやしかったのだろう
彼女が
俗に言う
裏ボスだったのだろう
まったくわからなかった

それにしても
女教師の明るいこと
私の事をわかっているような
はしゃぎようだ
この人も道化だ

聞けば
ボーイシュの彼女は
下町に長く続く花火師の家に生まれ
（あの界隈の元締めをしているらしい）
（元締めが何かはあとでマフィアと母に教わった）
そして、夏から秋の始めまで
全国を花火巡業し、帰ってきたらしい

もちろん高校には
大将自らお願いにあがり。

シスターもその下町、江戸っ子魂に
フランスの友愛を重ね、
いたく氣にいっているらしい
また、休むことについても
後で、補習を受けることを理由に
2学期始めの2週間休むことを
許可しているらしい。

しかしながら
そんな彼女も男手一つで
育てられ
物心ついた時には・・・

お母さんは、体が弱く
亡くなってしまったそうだ

まったく
彼女と、
彼女の育った環境は
ここでは正反対であるが
彼女のお母さんが
ここの出身ということで
彼女は自ら決心して
入学したらしい

おやじに言わせれば
死んだものに遠慮するこたあない
おまえはおまえなんだから
好きに生きるがよい
と何度も何度も諭したらしいが
父親譲りの
一度こうと決めたら
貫く性質

勝手に試験を受けて入学して
しまったらしい

まあ彼女らしい

裏ボス（後書き）

なし

ヒカルの碁（前書き）

なし

ヒカルの碁

ここまでオハラは一息に話す
はっちゃきは
ぼりぼりと頭をかく
真面目に語られすぎて
恥ずかしかったのか
飲み物を取りに行くと
一言

どんぐりを見れば
いつのまに
そんなに食べたのか
皿がつみあがっていた
私にまたポテトをすすめてくる

彼女の半世紀をみた心境
頑張ったと
声をかけたい
衝動にかられるが

会ってばかりの男に
そんなこと
とも考え
言葉を飲み込む

飲み込んだ言葉に詰まりながらも
どうしたらいいものか
氣まずい時間が過ぎる

こんな時こそ
氣のきいた事を言えばいいのに
どんぐり
ポテトを食べている
期待した私がばかだった
どんだけ
ポテトが好きなんだ

周りを見ると
なんだかひとけがさびしい

時計を見ると８時４５分

もうすぐ、学部ごとの
オリエンテーションが始まる時間だ。

聞けば、全員文学部とのこと
なんのことはない。
同じ穴の貉だ。

教育学部は、講堂で、
文学部は、昨日の体育館らしい。

どうせまた、
しけた学生課の見張り付き
だろうて

昼食時に会うことを約束する

心なしか

オハラがホッしているような感じもする
氣のせいか
誰にも言えなかったことを
初対面にいうのも
なんだが
それだからこそ
ものもあるのか

まだ残るポテトに未練を残す
どんぐりを
追い立て
体育館に向かう

予想はしていたが
つまらない

なんでこんなつまらないのか

文学部がいかに素晴らしいかの
次から次への名だたる先生の
演説

本当にあくびがでるくらい
素晴らしい

思いっきり
伸びをしながら
あくびをすると
よっしーーーの視線が痛い

完全にマークされているようだ

わしは問題児か
何もしとらん

どんぐりを見ると
深く考え込み
神妙にメモを取り
聞いている

あきれた

どんぐりも俗にまみれた。

まあ所詮、人の子。
一氣に軽蔑・・・

と

メモの手元をみる
おいおい
いつ用意したのか

よく見る
新聞朝刊の
「次の一手」の切り抜き
さらに白コピーで

ほかの書類と区別がつかない
さすが

時間の使い方を知っている
ここまでやるとは
恐れ入った

まさにヒカルの碁。

ヒカルの碁（後書き）

なし

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3881y/

風のグラスゴー

2011年11月26日01時48分発行